

2015.5.AGUDAA & UE PHILIPPINES DENTAL HEALTH CHARITYCLINIC TOUR 報告書

期日：2015.5.3-5.6

団長 亀山 正道

場所：Brgy. Matalapitap, Paniqui, Tarlac City in Philippines

協賛：アステラス製薬、昭和薬品、ライオン歯磨き KK

参加者：{日本歯科医師 12名 歯科衛生士 5名 放射線技師 2名 歯科衛生学科学生 3名}

{UE 大学歯科医師 12名 医師 3名 介助 8名 空軍警備輸送 約 15名 地元支援者 2名}



<出発の折紙>

セントレア午前7時集合。預け荷物は KIS 旅行社の誘導でスムーズに完了したが、PR437 便 9 時 30 分発が、乗客の遅れの為、1 時間以上飛行機内で待機した。

H 先生が、待ち時間に折紙 (Origami=the art of folding paper) の指導をしてくれ、外国人への御土産として喜ばれることを実感しており、帰りには皆さんに「鶴」と「箱」を覚えて帰るように指示、ヨーロッパでは大道芸人が幾らかで売っていた話も出ていて、技能を持つ者の特技は、日の目を見ることがあることがあると。

是非とも上級編の「怪獣」ぐらいは、覚えておきたい。



<入国一現地>

一時間遅れで比国に、現地空港で待つライオン歯磨き KK のスタッフから寄付、各 300 の歯ブラシ・歯磨き粉を受け取り、一路 Tarlac 市へ高速道路にて向かう。空港

から 4 時間を予定、当日、地元ではパキョオ選手の試合がテレビ、映画館で放映されていたため、マニラ市内の渋滞はなく現地入り。ホテルに荷物を置いて SM でショッピング、その後、翌日の活動の役割を確認しつつ地元の素朴な伝統フィリピン料理を味わう。今までのフィリピンの香辛料とは違う家庭の味は、日本人のお気に入りのメニューとなる。



<活動日一日目>

午前 6 時朝食、7 時出発。ホテルからバスで 45 分の距離、教会のある広大な敷地の中の東屋で、仮説診療所を設営、経験者の指示の下、手早く問診・診断 X-ray、抜歯、スケーリング、充填コーナーを患者の導線を考えて設置、8 時 30 分には空軍の兵隊が遠方の患者を輸送して待機させていた。そこには庭の一角にテントを張って 80 人は待つことができる特設待合室になっていた。地元の有力者の敷地で、彼女自身、皮膚科のドクターである。驚いたことに患者にはカレンダー付の名刺を渡し、また自分の名前が入ったペットボトルを配っている。桁の違う力を感じた。しかも取り仕切っているのは彼女自身である。比国の女性は強い。支援する UE 大学の先生らと AGUDAA の連携も昨年 11 月に活動したこともあり診療はスムーズに進行した。途中、Jolbee の鶏肉と Rice boll (おにぎり) の昼食をはさんで、3 時ごろまで活動。空軍の兵士が、マジックショーを披露して待つ患者さんを和ませてくれていた。衛生士さん学生らは子どもたちへの口腔衛生指導など汗を掻きつつの活動は頭が下がる思いでした。午後からは地元の迷信? 確かではないが、抜歯などは嫌っているのか、クリーニング、パスタの治療が多かった。患者は 200 名を越していた。ちょうどこの時間になると雲行が怪しくなってきた。雷の音も近づいてきている。荷物を教会に保管してバスに乗り込んだ。タイミングよくバスの帰路中で雨が降り始め、前が全く見えないのと一気に洪水のような道路が行く手を阻み、熱帯特有のスコールの洗礼を受けた。しかも 4 時だというのに真っ暗闇で、あたりの家の電気も消えている、ホテルもひょっとして停電がと頭の中をよぎったが、停電には至らなかったが夕刻までスコールが降り続いていた。



道路は膝まで浸かるほどの浸水で立ち往生の車も部屋から散見できた。

<活動日二日目>

午前6時朝食、前日と同様の日程で7時出発、昨日の嵐はうそのような快晴。機械器具を並べ診療に取り掛かった。当初、民族の違うカールヘアの人たちが列をなした。彼らは山の民、自給自足で暮らしていると、齲歯は確かに少ないががっちりした歯石の付着が多く除去には手間取る。従って予想より抜歯ケースは少ない。160人ほどの患者さんが詰めかけてくれた。午前11時に切り上げた。荷物の片づけ、ホテルで汗を流した後 UE 大学に向かった。

劇場の建物の後に6階建ての新校舎・病院が改装され UE 大学内の見学をした。夏休みのこともあり人の出入りは多くはなかった。学生数1,700人のマンモス歯学部である。イラン系、中国系、スペイン系の学生を含む5.6年生が実習をしている姿も見られる。タイポドントの実習室もいくつかあり、学生の実習教育に力をいれているようです。旧病院からの移動で古いのですが沢山のチェアが並べられ壮観な感じである。以前の吸引用のアナコンダは見られなかった。新たなビルディングで気持ちは良いが、天井がむき出しと低いのはちょっと圧迫感がある。各階を巡って案内を受けた後、皆さんと歓談し、ビュッフェスタイルで食して、最後の宿泊地のヘリテッジホテルに向かった。バスタブのあるホテルでゆっくりと熱い湯につかれたのは気持ちがほぐれ至福の時間でした。



<帰国>

11時にホテルを出発、渋滞もさほどなくアキノ空港に着いた。待合室で時間をつぶした。午後1時30分発であったが出発が遅れ、7時15分着、仙台へ帰る乗り継ぎ7時45分発に間に合ったが、ぎりぎりの瀬戸際で乗り継いで帰路に着いた人がいました。待ち時間には皆さんから反省やら現在の仕事、熱中していることなどの話を聞き、今後もこのような機会を継続してほしい旨の話が多かった。ともあれ無事、皆さん帰宅の地に向かいました。



<感想>

今回のツアは、全てにおいてスムーズに運びました。それも皆さんの協力があつたからこそだと思います。現地のN先生の昨年来の前準備・手配、そのお子さんの奮闘ぶり、現場の手続きをスムーズに介添えしてくれたS先生、大学の学長、応援に駆け付けてくれたOB、各社の協賛など心より感謝致します。また、同窓会からも支援・声援を頂き有難うございました。

